

令和2年度
事業報告書

自 令和 2年 4月 1日
至 令和 3年 3月31日

公益財団法人 長崎県老人クラブ連合会

令和2年度事業報告

本県においては、全国よりも高齢化が進んでおり、65歳以上の高齢者の割合が3割を超え、少子化とあいまって、その比率はますます高くなってきている。

しかしながら、高齢化の進展により高齢者が増加している中、組織を挙げて、会員一人ひとりがこれまで会員増強運動に取り組んできたにもかかわらず、老人クラブ活動の基盤となる会員数・クラブ数は年々減少し続けている。

また、地域においては、「つながり」「支え合い」ということが希薄となり、高齢者のひきこもりや孤立化などとともに、高齢者の財産を狙った悪質商法や特殊詐欺の被害などさまざまな課題に直面している。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われ、感染拡大防止のための外出自粛など様々な規制は、老人クラブ活動を抑止し、あらゆる活動の中止や縮小を余儀なくされた。

このような状況の中で、老人クラブは、地域における高齢者ネットワークという特性を生かし「健康」「友愛」「奉仕」の全国三大運動を通じて、地域社会の中心的役割を担うべく、種々の活動を展開しており、令和2年度本老連は新型コロナウイルス感染防止に配慮し、「老人クラブ21世紀プラン」及び「単位クラブ21」の指針・提案を基軸として、次の諸事業を実施した。

1 法人の運営

(1) 役員会等の開催

法人を適正に運営するため、①理事会 ②評議員会 ③監事会（監査）を開催した。なお、第1回評議員会については、書面決議の方法により開催した。

(2) 表彰

老人クラブの育成・発展に功績のあった団体や個人及び会員増強運動に顕著な業績のあった団体に対して、表彰式は行えなかったが、各市町老連を通じて県老連会長表彰を伝達するとともに全国老人クラブ連合会会長表彰への内申を行った。

(3) 法人事務の遂行

厳しい財政状況の中、経費節減に努め、関係規程に則り適正で円滑な事務の遂行に努めた。

2 全国三大運動（健康・友愛・奉仕）の推進

（1）健康活動の推進

健康づくり・介護予防活動は老人クラブ活動の重要課題であり、「健康づくりリーダー養成講習会（3モデル市老連）」などの事業を実施した。

（2）友愛活動の推進

地域支え合い活動としての友愛訪問活動の普及促進に努め、そのために「高齢者相互支援事業研修会」を3モデル市町老連で開催した。

（3）奉仕活動の推進

安全・安心な住みよいまちづくりのために、地域見守り活動や花の植栽、清掃活動などの奉仕・ボランティア活動を推進した。

特に、「全国一斉『社会奉仕の日』（9月20日）」を中心に美化活動に取り組んだ。

3 第55回県老人クラブ大会の開催

県下の老人クラブ活動のさらなる展開と老人福祉の一層の向上等を目的とした「第55回長崎県老人クラブ大会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一堂に会しての開催を中止としたが、表彰受賞者・大会宣言などを掲載した冊子を配布し、開催に代えた。

4 老人クラブリーダーの育成

市町老連トップリーダーの資質向上を目的とした「市町老連会長研修会」は中止としたが、市町老連実施のリーダー研修会への助成等を行った。

5 会員章の普及、資料・教材活用の促進、広報活動の推進

老人クラブ会員の誇りと連帯のシンボルである会員章の普及を図るとともに、資料や教材活用のため購入斡旋を行った。

また、老人クラブ活動のさらなる展開や会員増強のために、「会員増強」ポスター及びチラシを作成し、各市町老連・単位クラブへ配布するとともに、PRを兼ねて教育委員会・住民センター等へも配布した。

そのほか、機関誌「光と風の輪」や県老連のホームページにおいて広報活動を展開した。

6 老人クラブ傷害・賠償責任保険の普及

県老連機関誌等に広告を掲載するなど加入を呼びかけた。

7 市町老連、九州各県・指定都市老連及び全老連等との連携

市町老連事務局長会議の開催をはじめ、市町老連の要である各事務局との連携に努めるとともに、九州各県・指定都市老連及び全老連等とは情報交換等により連携を図った。

8 関係団体との連携、協力

県社会福祉協議会や県すこやか長寿財団との連携を図るとともに、県の福祉や保健など各行政の協議会等に参画した。

本老連が実施した事業の概要は次のとおりである。